

2021 年度

文京学院大学人間学部

FD 委員会報告書（概要）

2022 年 2 月 10 日

人間学部 FD 委員会

目次

ごあいさつ

1. 今年度の活動目的	P.3
2. 活動経過と内容	P.4
3. 委員会 議事録・資料（第1回～第8回）	P.6
4. 今年度のFD活動を振り返って	P.14
5. 人間学部FD委員会	P.16

ごあいさつ

栴島香代（人間学部学部長）

人間学部では、教員のニーズに合ったテーマを設定してFDを行おうと、委員が話し合いを重ねてテーマを設定しています。前年度は、主に遠隔授業方法について情報交換、先生方の工夫を話し合いました。今年度は、対面授業が大幅に増加したため、前期はいわゆる「ハイブリッド授業」をテーマにしました。討論から、遠隔の授業も教育方法の一つとして効果的に活用できることもわかりました。「教育力日本一」をめざして、各教員が授業改善の努力を重ねるうえで、ヒントやアドバイスを得る機会になることを願っています。

また、後期には、現在大学教育に求められているDXについて取り上げました。教育課程について自分の担当科目の位置づけのみならず、ディプロマポリシーと関連付けながら全体を俯瞰して教育を展開することも必要です。講師の木村浩則先生には、新たな視点で学科教育、教育課程の見直しにつながる情報提供をいただくことができました。

先生方からのご希望も取り入れながら、今後も学部FDを継続したいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

1. 今年度の活動目的

人間学部 FD 委員会は今年度で発足 9 年目を迎えます。毎年、活動報告書を作成し成果を共有するとともに、その反省をもとに次年度の活動の方向性を決めてきました。報告書は大学ホームページ上にバナー「人間学部の FD への取組」を設置、公開しています。

2022 年度は 2021 年度同様、コロナ禍での教育運営となり、学生は当然のこと、私たち教員、そして職員の皆様方も慣れてきた点と課題を抱え込みながらの船出となりました。また、2021 年度後半にはデルタ株の変異種であるオミクロン株の出現により、さらに一層の緊張感の中での教育体制の構築に奔走して参りました。

このような状況の中、2021 年度に FD 研修会で取り上げた前期「各学科の遠隔授業の取組みについて-工夫された点、課題-」、後期「今後を見据えたハイブリット型の授業について」は大変役立つ内容でありました。事前に全教員で課題を共有し、その改善方法を議論していたため、大きな混乱もなく授業を遂行することができたと感じています。

今年度は、コロナ禍でのさらに質の高い教育を皆で考えるだけでなく、未来を見据えた教育改革の一環として、「大学教育で必修化がすすめられるデータサイエンス科目に関する研修会 ～文科省の情報教育にかかわる推進の動きと背景、大学・教職課程に何が求められるのか～」をテーマに後期の研修会を実施しました。今後の大学教育における情報教育の詳細や教員に求められる資質に関し、皆で考える場となったと思います。

FD 委員会での取組み、FD 研修会での教員間での議論は、来年度以降における新たな学びの提供に役立つことを期待しています。

(中山智晴 人間学部 FD 委員長)

2. 活動経過と内容

実施日	FD 委員会（主な議題）	研修会
4月17日（土）	第1回人間学部FD委員会 ・委員会の進め方 ・委員会の目標 ・前期FD研修会のテーマ・方法	
4月21日（水）	第2回人間学部FD委員会 ・前期FD研修会のテーマ選定 ・研修会日程調整 ・研修会の進め方	
5月19日（水）	第3回人間学部FD委員会 ・前期FD研修会の日程決定 ・研修会テーマ決定 ・研修会の進め方の決定	
6月30日（水）	第4回人間学部FD委員会 ・前期FD研修会の役割検討 ・グループセッションの進め方検討 ・委員間の役割決め	
7月14日（水）	研修テーマ 「コロナ禍における対面式授業の課題と工夫（特に演習・実験・実習等）」	人間学部前期FD研修会
9月13日（月）	第5回人間学部FD委員会 1. 前期研修会の振り返り 2. 委員会の後期目標の確認 ・前・後期1回ずつの学部FD研修会の開催 ・前・後期研修会の開催によるFD活動の推進 3. 後期研修会のテーマ検討（継続審議事項）	
9月19日（水） 水)	第6回人間学部FD委員会 1. 後期研修会のテーマ検討 2. 講師依頼の調整	
10月14日（水）	第7回人間学部FD委員会 1. テーマ決定 2. 役割分担決め 3. 研修会の流れの確認	
11月19日（水）	第8回人間学部FD委員会 1. 講演内容の確認と修正	

	2. 研修会当日の流れ、分担確認 3. 時間の調整	
1月19日(水)	大学教育で必修化がすすめられるデータサイエンス科目に関する研修会 ～大学におけるデータサイエンス科目導入とDX その背景と課題～	人間学部後期 FD研修会
1月26日(水)	2021年度人間学部FD研修会 報告書の作成と修正	
2月9日(水)	2021年度人間学部FD委員会 振り返り	

3. 委員会 議事録・資料（第1回～第8回）

第1回 人間学部 FD 委員会 議事録

日時：2021年4月17日（土）

場所：メール審議

出席者：中山智晴 椛島香代 小林剛史 奈良環

【審議・確認事項】

1. 委員会の進め方

・毎月第3水曜16時（Teams）開催（FD研修の日程にもより開催変更、中止等有り）

2. 委員会の目標

- ・前・後期1回ずつの学部FD研修会を実施
- ・前・後期の研修会の開催によるFD活動推進

次回継続審議

3. 今年度の委員会の議題（研修会でのテーマなど）

・今年度のFD研修の方法：オンラインでの研修とする。前期後期各1の日程を決める。

・研修会のテーマ案について

1. 入学前教育 - 基礎学力テスト結果 - 初年次教育の関係性
2. 遠隔授業における学生の評価方法について
3. 遠隔授業における学生の学習態度やコミュニケーション能力を育てていく工夫
4. オンラインでのアクティブラーニング

4. その他

第2回 人間学部 FD 委員会 議事録

日時：2021年4月21日（水）

場所：Teams

出席者：中山智晴 椛島香代 小林剛史 奈良環

【審議・確認事項】

1. 前期のFD研修会日程及びテーマについて

人間学部 FD 研修会日時： 2021 年 6 月 30 日（水） 15：00～16：00

開催方法：Teams にて開催 各学科でのグループセッションと発表

研修テーマ（案）：「コロナ禍における対面式授業の課題と工夫（演習・実験・実習等）」
感染予防に配慮しながらの対面授業が行われている。対面式授業の授業方法
やさまざまな工夫、課題等を各学科で出し合い、まとめたものを FD 委員が
発表する。

2.研修にむけての準備と当日の流れ

FD 研修会日程等の教員への周知：5 月の教授会報告事項で伝えられるよう中山先生から
三俣さんに連絡する。

FD 研修会全大会の Teams 予約と各学科に分かれて話し合うための Teams の予約：次
回会議で決める

当日の流れ（案）

時間		内容	担当者
15：00～15：05	5 分	流れの説明と研修についての主旨説明 各学科の話し合いの会議に移動	
15：05～15：30	25 分	各学科内での話し合い	
15：30～15：35	5 分	学科発表①	
15：35～15：40	5 分	学科発表②	
15：40～15：45	5 分	学科発表③	
15：45～15：50	5 分	学科発表④	
15：50～16：00	10 分	まとめとアンケート??	

第 3 回 人間学部 FD 委員会 議事録

日時：2021 年 5 月 19 日（水） 16：00～16：30

場所：Teams

出席者：中山智晴 椛島香代 小林剛史 奈良環

【審議・確認事項】

★人間学部 FD 研修会日時

2021 年 7 月 14 日（水）教授会・研究科委員会終了後 約 1 時間（5 月教授会でアナウンス済み）

★開催方法

Teamsにて開催 各学科でのグループセッションと発表
※FD研修会全大会のTeams予約と各学科に分かれて話し合うためのTeamsの予約については中山委員長より、教務G、情報Cに手配済み

★研修テーマ

「コロナ禍における対面式授業の課題と工夫（特に演習・実験・実習等）」

現在も感染予防に配慮しながらの対面式授業が行われている。授業実施に関しては各学科、教員で様々な工夫をしているが、未だ不安な点も多い。そこで、工夫や課題・不安等を各学科で話し合いまとめ報告、共有化するとともに、他学科の取り組みをヒントに授業改善に役立てることを目的とする。各学科の話し合い・報告の流れはFD委員が担当する。

当日の流れ（案）

時間		内容	担当者
15:00~15:05	5分	流れの説明と研修についての主旨説明 各学科の話し合いの会議に移動	中山
15:05~15:30	25分	各学科内での話し合い	司会:FD委員
15:30~15:33	3分	学科発表①	コミ社:未定
15:33~15:36	3分	学科発表②	福祉:奈良
15:36~15:39	3分	学科発表③	心理:小林(剛)
15:39~15:42	3分	学科発表④	児童:椛島
15:42~16:00	18分	まとめ(他学科への質問への回答) アンケート	中山・奈良・小林・椛島 小林(剛)

○FDチャンネルに学科話し合い内容を入力するWord(各学科分)をファイルに入れておく:
奈良

○質問紙の作成:小林(剛)

第4回 人間学部FD委員会 議事録

日時:2021年6月30日(水) 15:00~15:30

場所:Teams

出席者：中山智晴 椛島香代 小林剛史 奈良環

【7/14FD 研修会進行確認】

★人間学部 FD 研修会日時

2021年7月14日（水）教授会・研究科委員会終了後 約1時間

★開催方法

Teamsにて開催 各学科でのグループセッションと発表

※「人間学部前期 FD 研修会」チーム及び各学科のチャンネル製作済み★研修テーマ 「コロナ禍における対面式授業の課題と工夫（特に演習・実験・実習等）」

現在も感染予防に配慮しながらの対面式授業が行われている。授業実施に関しては各学科、教員で様々な工夫をしているが、未だ不安な点も多い。そこで、工夫や課題・不安等を各学科で話し合いまとめ報告、共有化するとともに、他学科の取り組みをヒントに授業改善に役立てることを目的とする。各学科の話し合い・報告の流れはFD委員が担当する。

当日の流れ

時間		内容	担当者
15:00~15:05	5分	流れの説明と研修についての主旨説明 各学科の話し合いの会議に移動 ★「人間学部前期 FD 研修会」の各学科のチャンネルから、各学科の会議に入るよう伝える。	中山
15:05~15:27	22分	各学科内での話し合い	司会：FD委員
15:27~15:30	3分	★発表を聞いた上で、質問をチャットに挙げるようアナウンス（チャットの質問には、何学科への質問なのかも書くよう伝える）	中山
15:30~15:33	3分	学科発表①	コミ社:未定
15:33~15:36	3分	学科発表②	福祉:奈良
15:36~15:39	3分	学科発表③	心理:小林（剛）
15:39~15:42	3分	学科発表④	児童:椛島
15:42~16:00	18分	まとめ（チャットに来た質問について書く学科または担当教員が回答） アンケート	中山・奈良・小林・椛島 小林（剛）

★アンケートは小林先生が作成済（forms）であり、人間学部前期 FD 研修会チームの「一般」にあるものを事務担当者に当日の研修会の終了時間に参加の全教員に送信してもらう。

★各学科での話し合いに移る際に、各学科の会議に行けない教員を助ける事務サポートをお願いします。

以上を審議・確認した。

第5回 人間学部FD委員会 議事録

日時：2021年9月13日（月）

場所：メール審議

出席者：中山智晴 椛島香代 小林剛史 奈良環

【審議・確認事項】

1. 前期研修会の振り返り
2. 委員会の後期目標の確認
 - ・ 前・後期1回ずつの学部FD研修会の開催
 - ・ 前・後期研修会の開催によるFD活動の推進
3. 後期研修会のテーマ検討（継続審議事項）

<テーマ（案）>

大学教育で必修化がすすめられるデータサイエンス科目に関する第1回勉強会
(文科省の情報教育にかかわる推進の動きと背景、大学・教職課程に何が求められるのか)

<内容（案）>

1. 情報教育をめぐる近年の政策動向とその背景
2. 義務教育、中等教育における動き
3. 高等教育における動き
4. 大学としてどのような対応が求められるのか

<講師候補>

木村浩則教授（児童発達学科）

<研修会スケジュール>

日程、進行など含め継続審議

【報告事項】

1. 前期FD研修会報告書の進捗状況

<補足資料>

※データサイエンス

統計学、情報工学など、様々な領域の手法を用い有意義なデータを引き出すための研究分野

※具体的には、

- ・数値データ分析に関する歴史的な蓄積がある統計学
- ・高度な解析モデルを支える数学
- ・ビックデータのインフラを構築する計算機科学
- ・使いやすいツールを開発する情報工学
- ・画像や音声の解析に用いられるパターン認識や機械学習
- ・視覚化・可視化に役立つデザイン情報学

などがあげられる。

以上

第6回 人間学部FD委員会 議事録

日時：2021年9月19日（水）

場所：メール審議

出席者：中山智晴 椛島香代 小林剛史 奈良環

【審議・確認事項】

1. 後期研修会のテーマ

以下のテーマ、内容で実施することとなった。

<テーマ>

大学教育で必修化がすすめられるデータサイエンス科目に関する研修会

～文科省の情報教育にかかわる推進の動きと背景、大学・教職課程に何が求められるのか～

<内容>

1. 情報教育をめぐる近年の政策動向とその背景
2. 義務教育、中等教育における動き
3. 高等教育における動き
4. 大学としてどのような対応が求められるのか

<講師>

木村浩則教授（児童発達学科）

<研修会スケジュール>

2022年1月19日(水) 教授会・研究科委員会終了後 約1時間(講義40分+質疑応答20分)

オンライン研修会(Teams)

【報告事項】

1. データサイエンス科目の大学共通科目としての設置の可能性について
2. 共通科目による全学科カリキュラム改変の可能性
3. 人間学部においてはすでに統計学などデータサイエンス科目を有している学科とそうでない学科が混在している現状について。

以上

第7回 人間学部FD委員会 議事録

日時：2021年10月14日(水)

場所：メール審議

出席者：中山智晴 椛島香代 小林剛史 奈良環

日時	2022年1月19日(水) 教授会・研究科委員会終了後 約1時間
実施方法	オンライン研修会(Teams)
講師	木村浩則教授(児童発達学科)
テーマ	大学教育で必修化がすすめられるデータサイエンス科目に関する研修会 ～大学におけるデータサイエンス科目導入とDX その背景と課題～
内容	(1)教育のデジタル化をめぐる政策動向とその背景 (2)義務教育、中等教育における動向 (3)大学教育における動向 (4)大学に何が問われているのか

【枠割分担】

1. Teamsへの研修会予約設定 16時00分～(奈良先生⇒担当部署への依頼)
2. 教授会終了後の開催時間アナウンス(椛島先生)
3. 司会(中山)
4. 講演・質疑応答の録画(奈良先生)
5. 質疑の仕方(まずは参加教員から挙手で質問を募る。質問がない場合は委員から、また、委員から学科教員へ振る)

6. Forms アンケート（小林先生⇒研修会終了後1時間程度で Teams からアンケートが届く）
7. FD 研修会報告書の作成（中山⇒前期 FD 研修会心理学科ワークショップの議事録があれば中山まで）
8. その他（特になし）

第8回 人間学部 FD 委員会 議事録

日時：2021年11月19日（水）

場所：メール審議

出席者：中山智晴 椛島香代 小林剛史 奈良環

1. 講演内容の一部変更を受けて、スケジュールや手順の再確認を行う。

日時	2022年1月19日（水）教授会・研究科委員会終了後 約1時間
実施方法	オンライン研修会（Teams）
講師	木村浩則教授（児童発達学科）
テーマ	大学教育で必修化がすすめられるデータサイエンス科目に関する研修会 ～文科省の情報教育にかかわる推進の動きと背景、大学・教職課程に何が求められるのか～
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報教育をめぐる近年の政策動向とその背景 2. 義務教育、中等教育における動き 3. 高等教育における動き 4. 大学としてどのような対応が求められるのか
スケジュール	開催の挨拶（中山） 40分：講師による講演（木村浩則先生） 20分：参加者と講師による質疑応答（司会：中山） 閉会の挨拶（椛島）
役割分担	講演の録画＋文字起こし：奈良 質疑応答の内容の録画＋文字起こし：小林

以上

4. 今年度のFD活動を振り返って

新型コロナウイルス感染症の流行から1年が経過し、2021年度は原則としてハイフレックス型授業も含めた対面での授業が展開されました。それに伴い、FD活動として前期のFD研修会では「コロナ禍における対面式授業の課題と工夫（特に演習・実習・実験）」をテーマに各学科での対面授業に関する創意工夫や課題が発表されました。これらのFD活動は、教育に関する工夫を共有するだけでなく、それぞれの学科の特徴や、学生状況などの貴重な情報共有の場ともなっていると思います。新型コロナウイルス感染症に対する不安はまだ多いものの、今後の対面での授業に対する新しい取り組みのヒント、授業改善についての多くのアイデア、気づきのある研修になったと考えます。また、こうした内容を話す中で、オンラインでの授業の良さ、活用なども改めて考える機会となりました。

後期のFD活動としては、「大学教育で必修化がすすめられるデータサイエンス科目に関する研修会 ～文科省の情報教育にかかわる推進の動きと背景、大学・教職課程に何が求められるのか～」をテーマに後期の研修会を実施しました。

この後の大学教育、教育改善がどのように進められていくのか、それらに対応するために教員に求められるスキル等や現状での課題について知ることができました。今後の変化に伴い継続的に取り上げたいテーマであることも再認識されました。

以上、1年間を振り返れば、FDそのものも、完全オンラインの状況下でありながら高い充実度で展開されました。すでにコロナ禍が2年続く中、FDの内容は次第に、コロナ禍における困難、学生からの悲痛な訴え、教職員の対応の限界といった混乱の把握・陳述から、よりポスト・コロナを見据えた積極的内容へと発展してきました。それは、とりもなおさず教職員（もちろん学生も）が、現状にただ座して無対応となることに終始せず、新たな大学のあり方にシフトする覚悟を持って活動し続けたことに他ならないと考えます。2年前、コロナ禍に伴う突然のTeamsによる授業、委員会活動には、混乱を示された方も多かったことを記憶しています。しかし、皮肉にも、コロナ禍という不可避的外圧は、これに苦しみながらも屈することなく教育のあり方を模索することを短時間で学ぶ機会を我々に与えました。我々は、文科省からトップダウンのDX施策が打ち出されることに先立って、コロナ禍、そしてポスト・コロナに対応する方法論を構築してきました。そしてFDにおいて、こうした取り組みのポジティブな変容をFDにて伺い知ることができたのは、FD委員全員にとっての大きな喜びでした。改めてご協力いただいた教職員の皆様に心から感謝申し上げます。

大学教育の今後を考える際、新たなITデバイスのスキル獲得をベースとしたオンライン、オンディマンド、ハイフレックス、ハイブリッド授業（および研究）の展開の可能性はきわめて大きいと言えます。授業展開、学生の課題提出や出席管理、学生からの多様な要請や質問に対する対応は、TeamsやGoogle Classroom、Zoomといったデバイスとネット回線の高速化によって従来より遥かに効率的に処理できることが分かりました。依然としてこうしたデバイスの真の効率的活用には遠いものの、教職員・学生が協働してこれらのさらなる

簡便かつ有効な活用方法を構築していくのは、もはや時間の問題です。本来、DXはユーザー・フレンドリーを目指すものであり、今後の発達により、あらゆる世代にも広く受け入れられやすいものとなると推測します。すなわち、誰でもより簡便に、分かり易く扱えるものへと発展していくでしょう。我々が目指すべきは、こうしたスキル獲得にがむしやらにったり、あるいは閉口することではなく、その先を見据えた新たな大学教育・研究のあり方を構築することです。海外の講師をオンラインで招聘している教員がすでに本学でも多く見受けられます。企業からの講師も、対面に留まらず、オンラインで招聘したり、オンラインによる学生のインターンも可能となる範囲が拡大するでしょう。オンラインが適した学生も一定数存在します。15回の授業の5回未満程度をオンラインを有効活用して授業を展開することは、むしろ高い教育効果を生む可能性すらあります。さらに、Microsoft Power BI等のアプリケーションによって、学生の時系列的成長、15回の課題状況や、ポートフォリオを紐付けたりといった、従来きわめて長時間を要した情報処理を相対的にきわめて短い時間で行うことができれば、教職員が相対的により行うべき活動、より有機的な活動の時間が確保できます。本来、DXは貴重な人的資源の真の有効活用のためにあるものと考えられます。

近い将来、限られた貴重かつ優秀な人的資源を枯渇させることなく、潤いを保ちつつ活力をもって最大限生かすことができるような大学の環境を目指す新たな契機となる年であった、と振り返る日が来ることを願いつつ、この報告書を結びたいと思います。

人間学部の教職員の皆様、1年間、誠にありがとうございました。

(小林 剛史・奈良 環 人間学部 FD 委員)

5. 人間学部 FD 委員会

中山 智晴（コミュニケーション社会学科）委員長

椛島 香代（児童発達学科）

小林 剛史（心理学科）

奈良 環（人間福祉学科）

以上